



クルミの垂飾—その2—

富山県埋蔵文化財センター

出土したクルミの殻を観察する



小竹貝塚から出土したクルミの殻
 (B地区 113 グリッドⅢa 層、縄文時代前期後葉～末葉)
 全てオニグルミで、ヒメグルミはありません。表面が黒っぽく変色している殻はありますが、その原因が何か(被熱か土壌等による汚染か)は不明です。

小竹貝塚出土のクルミの殻をみると、私たちが実験で割った現代のクルミの殻と非常によく似たものがあることがわかります。加熱して割られたとみられる殻や、頂部または底部打撃で割られた殻のほか、加熱で口が開いているもののまだ割られていないクルミも見つかりました。ほとんど全ての殻が、仁を取り出しやすい方向を示す縫合線を意識して割られていることがわかります。



加熱して割ったとみられる殻。縫合線できれいに割れています。
 打撃による欠損が頂部と底部にみられる殻。
 口が薄く開いている殻。仁が食べられる状態ではなかったのでしょうか。

割ったクルミに穿孔する

きれいに割れたクルミの殻を選び、紐を通すための小さな孔をあけていきます。使う道具は細い竹錐と研磨材(細かい砂)のセットや石錐等です。これらは縄文時代の石製・骨角製玉類の穿孔道具を想定しています。穿孔方向は内面からと外面から、それぞれの方法を試しました。

内面穿孔

クルミの殻の内面は頂部付近が平坦で、穿孔箇所を狙いやすくなっています。竹錐先端を殻内面の頂部付近に押し当てると、底部が持ち上がり斜めになりますが、意外と安定した形です。

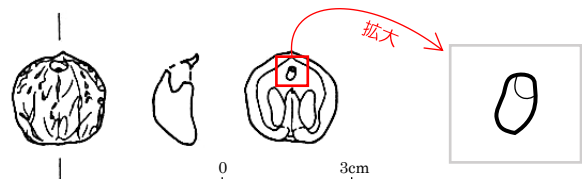
オニグルミの殻は内面が柔らかく外面が堅い中空の二重構造なので、内面からアプローチすると先に削れた柔らかい部分で穿孔具が固定され、作業がやりやすくなりました。また殻に厚みがあるので、竹錐と殻の角度が斜めになることで内面の孔の形が縦長の楕円形になりました。一方、ヒメグルミは殻が扁平で薄いため、内面・外面とも小さな円形の孔があきました。これらは



小竹貝塚から出土したクルミ垂飾(縄文時代前期)いずれも頂部近くに小さな円形の孔がひとつあいています。右下の3217は尖った頂部を削り落としてしています。



加熱して割った現代のクルミ(中央は仁)殻が全く欠けることなく縫合線に沿ってきれいに割れています。穿孔位置は出土品と同じ頂部付近の平坦面を狙います。



オニグルミ垂飾の実測図
 (遺物番号 3230) 富山県文化振興財団 2014『小竹貝塚発掘調査報告』より転載

孔の形は、外殻側は円形ですが、内側は楕円形となっています。

出土品の特徴と一致します。孔が貫通するまでにかかった時間は、ヒメグルミが 10 分程度だったのに比べてオニグルミは 30 分以上でした。

なお穿孔道具に硬い石錐を使い、力を込めて一気に孔をあけようとすると、外殻がバリバリと割れるように穴が開いてしまうことがありました。出土品の中にはこうした失敗品のような垂飾があり、これらは石錐を使った可能性があることがわかりました。

外面穿孔

出土したクルミ製品の中で明らかに外面穿孔とわかるものは未貫通の1点(オニグルミ、遺物番号 3218)のみです。クルミの外面から穴をあける場合、竹錐先端が滑るので、クルミを道具で押さえるか下に滑り止めのマットを敷いて斜めの角度で穿孔します。最初に硬い外殻を貫通させなければならぬので、少し難しさを感じました。

仕上げ

穿孔したクルミは、割れ口のささくれや尖った頂部などを砥石で削って滑らかに整えます。ヒメグルミはオニグルミよりも頂部が尖っていて刺さると痛いので、頂部の調整を特に念入りに行います。出土品にも頂部を削り落としたヒメグルミ(遺物番号 3217)があります。割れ口や外面も研磨して仕上げます。

小竹貝塚のクルミ垂飾は複数出土しています。単独の垂飾ではなく、紐で連ねたネックレスだったのかもしれませんが。(朝田亜紀子)

オニグルミの内面穿孔



殻の内面に竹錐を当て、回転させて穿孔します。殻は地面に対して斜めに持ち上がりませんが、意外と安定しています。



殻は丸みがあり、頂部近くにも厚みがあります。穿孔時に角度がつくと、内面側の穴は縦に広がります。



オニグルミの外殻は硬く、穴が貫通するまで 30 分以上かかりました。穿孔の角度が原因で、穴の内面は長楕円形になりました。

ヒメグルミの内面穿孔



ヒメグルミは殻が薄く柔らかいので、10 分程度で穴が貫通しました。



ヒメグルミは扁平形で、頂部付近も殻に厚みがありません。

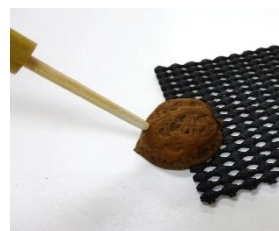


ヒメグルミの穴の形は、内面も外面も小さな円形になりました。



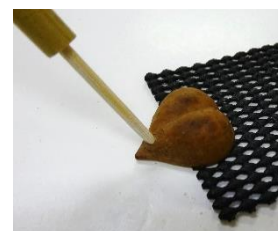
小竹貝塚から出土したオニグルミ垂飾・垂飾未成品
3232：孔の内面は円形ですが外面は不整形の割れたような形です。石錐で穿孔した可能性があります。
3218：外面から穿孔していますが、穴は貫通していません。未成品ですが、外面穿孔が明らかで例です。

オニグルミの外面穿孔



頂部付近を狙って穿孔します。下にマットを敷いてクルミが滑らないようにし、斜めの角度で穿孔すると安定します。

ヒメグルミの外面穿孔



扁平なヒメグルミは、オニグルミより垂直に近い角度で穿孔できます。殻も柔らかいので、比較的簡単に穿孔できます。



埋文ボランティアによるクルミ垂飾づくりの様子

左：穿孔 中央：仕上げの削り調整 右：仕上げ (左・中央は小島さん、右は岩場さん)